大学教育再生加速プログラム採択事業
シンポジウム

～　国際バカロレアの「学びの評価」と高校・大学教育改革への活用　～

◆日　　時　　平成２７年１２月１４日（月）　１３：００～１７：００

◆場　　所　　岡山大学創立五十周年記念館

プログラム

１２：３０～　　受　　付

１３：００～　　開会の挨拶　　岡山大学理事・副学長（教育担当）　許 南浩

講　　演

■国際バカロレア教育の評価から何を学ぶことができるのか（論点整理）
岡山大学副学長（入試改革担当）　田原 誠

■国際バカロレア教育における評価（Assessment）
Chief Assessment Officer
International Baccalaureate Office　Carolyn Adams

■能力と学習の評価ーその枠組みー
京都大学高等教育研究開発推進センター教授　松下 佳代

■IB 教育から高等教育への示唆（学習評価の観点から）
千葉大学運営基盤機構大学評価部門特任研究員　御手洗 明佳

■一条校での国際バカロレア教育の評価
加藤学園暁秀高等学校中学校
バイリンガルコースディレクター　ウェンドフェルト 延子

１５：３０～　　事例報告　「スーパーグローバルハイスクールの取り組み」
岡山県立岡山城東高等学校　妹尾 晋吾，宮本 忠

１５：４５～　　休　　憩

１６：００～　　パネルディスカッション

モデレーター
岡山大学副学長（入試改革担当）　田原 誠

パネリスト
Chief Assessment Officer, International Baccalaureate Office　Carolyn Adams
京都大学高等教育研究開発推進センター教授　松下 佳代
千葉大学運営基盤機構大学評価部門特任研究員　御手洗 明佳
加藤学園暁秀高等学校中学校バイリンガルコースディレクター　ウェンドフェルト 延子

１７：００　　閉　　会

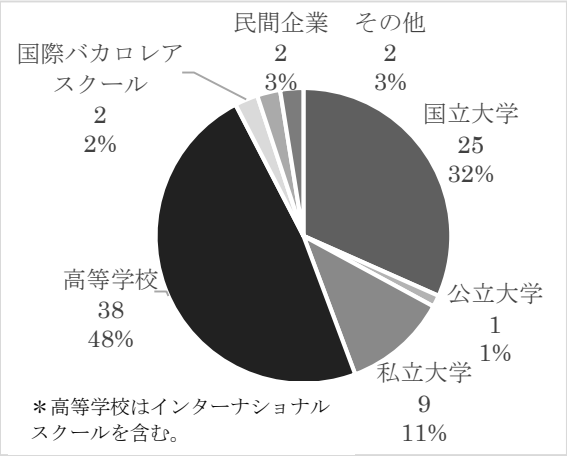
１７：３０～　　意見交換会（会場：Ｊテラス／会費制９０分）

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム
～　国際バカロレアの「学びの評価」と高校・大学教育改革への活用　～

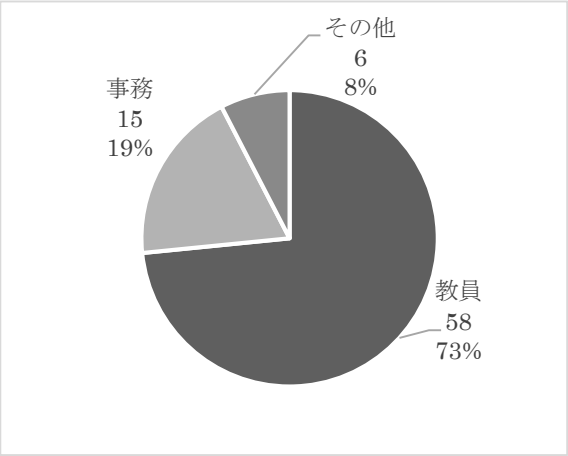
日　　時　　平成２７年１２月１４日（月）　１３時００分～１７時００分
場　　所　　岡山大学創立五十周年記念館

参加者数　　１１９名（学外９６名　　学内２３名）
アンケート回答者数　７９名

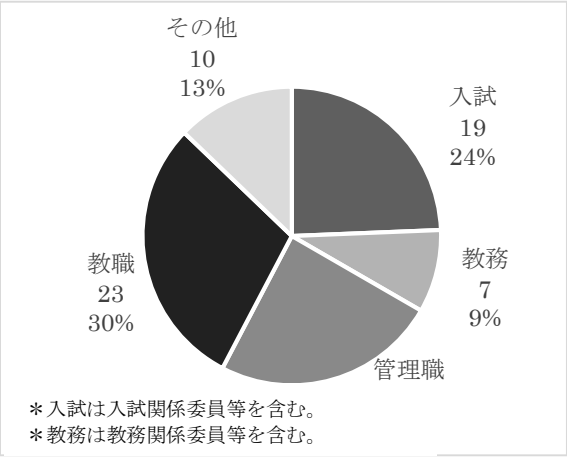
問１　所属を回答ください。



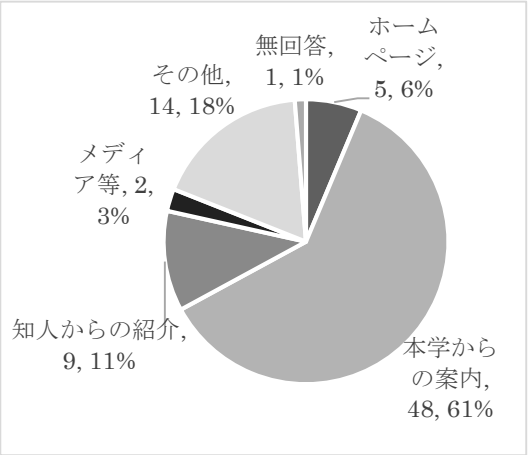
問２　職種をご回答ください。



問３　役職（ご担当のお仕事）を回答ください。



問４　本日のシンポジウムの開催をどちらで知りましたか。



問５　本日のシンポジウムはいかがだったでしょうか。それぞれについて回答ください。

■国際バカロレア教育から何を学ぶことができるのか（論点整理）　岡山大学副学長（入試改革担当）　田原 誠

選択項目	回答数	回答率
１．学ぶことが非常に多かった	8	11%
２．学ぶことが多かった	42	55%
３．どちらでもない	24	32%
４．学ぶことがあまりなかった	2	3%
５．学ぶことがなかった	0	0%

76

■国際バカロレア教育における評価（Assessment）

Chief Assessment Officer, International Baccalaureate Office, Carolyn Adams

選択項目	回答数	回答率
１．学ぶことが非常に多かった	21	27%
２．学ぶことが多かった	38	49%
３．どちらでもない	18	23%
４．学ぶことがあまりなかった	0	0%
５．学ぶことがなかった	0	0%

77

■能力と学習の評価－その枠組み－　京都大学高等教育開発推進センター教授　松下 佳代

選択項目	回答数	回答率
１．学ぶことが非常に多かった	29	37%
２．学ぶことが多かった	37	47%
３．どちらでもない	11	14%
４．学ぶことがあまりなかった	2	3%
５．学ぶことがなかった	0	0%

79

■IB 教育から高等教育への示唆（学習評価の観点から）　千葉大学運営基盤機構大学評価部門特任研究員　御手洗 明佳

選択項目	回答数	回答率
１．学ぶことが非常に多かった	18	23%
２．学ぶことが多かった	37	47%
３．どちらでもない	15	19%
４．学ぶことがあまりなかった	4	5%
５．学ぶことがなかった	4	5%

78

■一条校での国際バカロレア教育の評価

加藤学園暁秀高等学校中学校バイリンガルコースディレクター　ウェンドフェルト延子

選択項目	回答数	回答率
1．学ぶことが非常に多かった	22	31%
2．学ぶことが多かった	37	51%
3．どちらでもない	13	18%
4．学ぶことがあまりなかった	1	1%
5．学ぶことがなかった	0	0%
	72	

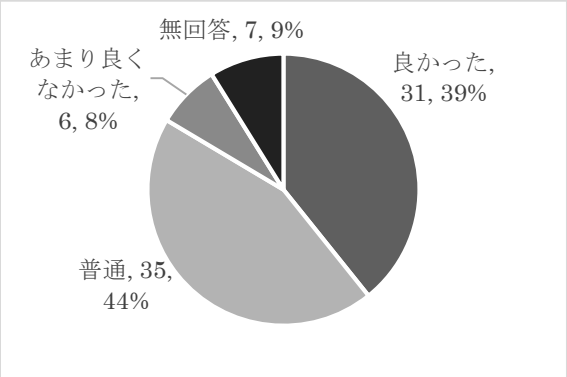
■スーパーグローバルハイスクールの取り組み　岡山県立岡山城東高等学校　妹尾 晋吾，宮本 忠

選択項目	回答数	回答率
1．学ぶことが非常に多かった	6	9%
2．学ぶことが多かった	33	47%
3．どちらでもない	29	41%
4．学ぶことがあまりなかった	2	3%
5．学ぶことがなかった	0	0%
	70	

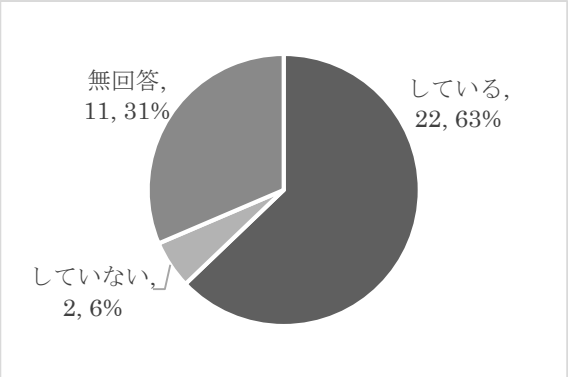
■パネルディスカッション

選択項目	回答数	回答率
1．学ぶことが非常に多かった	12	26%
2．学ぶことが多かった	23	50%
3．どちらでもない	9	20%
4．学ぶことがあまりなかった	2	4%
5．学ぶことがなかった	0	0%
	46	

問６．全体の運営はいかがだったでしょうか。



問７．大学関係者の方に伺います。貴学への IB 入試導入を検討していますか。



問 8. 高等学校関係者の方に伺います。岡山大学の IB 入試，入試改革についてご意見があればご記入ください。

- 我々公立高校には現状関係ない。外向けのための動きであり，日本の教育全体として動いているようには見えない。
- 世界統一試験（DP）の高得点獲得者が日本の大学に入学するのか。高得点とは言えない学生をターゲットにしているのか。IB 履修者の受け皿が拡大することは良いことだが，それで日本の将来を引っ張るような，世界の中で埋没しないグローバルな人間が輩出できるのか。（問 9 についても同様。）
- 非常に良く考えられたシステムだと思う。他大学での導入につながってくれると思う。
- IB はこの地域では浸透しておらず，今春入試のように希望者は少ないと思うが，制度を導入したことへの評価は高い。
- SSH，SGH などの特別なシステムからの入学者のみをターゲットにしていては，希望者は確実に減ると思う。現場の声をよく聞いて改革をして欲しい。
- 高校の教育の現状を分析し，どのような学生を育てるのかを明確にするべきである。
- IB は重要だと思うが，県内の公立高校では受験できない。
- 評価の観点を明示してほしい。
- どこから初めたらよいのか，今後研究していきたいと思う。
- IB をそこまで研究し，教育養成を考えているとは知らなかった。注目していきたい。
- 貴学が IB も視野に入れて高大接続改革を進めようとされていることに勇気をもらった。
- 今日の講演を聞いていると，岡山大学一大学だけで対応できる IB 入試ではないのではと感じた。

問 9. 今後，岡山大学の入試制度に関して期待すること等その他ご意見があればご記入ください。

- もっと地元を大切にして欲しい。
- 今後，IB 入試の定員を増やすのか。
- 早めの情報発信を期待している。
- 岡山大学の IB 入試は，先進的な事例なので，これからは事例の具体的な紹介をしてもらえると助かる。特に，IB 入試で入学した学生が，一般的につまらないと言われている日本の大学教育にどう適応するのか，他の学生にどういう影響を及ぼすかなど。
- 近隣に京大・阪大・神大があり，いきなり能力の高い学生を確保するのは難しいと思う。中四国地区で足場を固め，能力の高い学生を育てることから始めることが大切では。様々なことを導入し，改革する姿勢はよい方向と思う。
- １．学内の周知→教職員全員の参与（意見交換）。
  ２．教職員の共同（協働）参加。教員だけの参与に限度があることを深く感じており，教育機能を持つ職員の育成をぜひご検討ください。
- 地方の高校の現状にも目を向けてほしい。地域の特徴的な取り組みを評価してほしい。
- アクティブ・ラーニングなど探究的な学習の成果を客観的に評価する方法を確立し，入試制度に反映させていただきたい。
- 探究型学習経験を活かす入試制度を AO 入試ではなく設定していただければありがたい。

問 10. 高校・大学では，いわゆる「アクティブ・ラーニング」等，これまでにない授業形態や教育・指導方法が導入されてきています。そのような授業等の評価（Assessment）についてお困りの点があればご記入ください。

- 今のところ特にない。アクティブ・ラーニングについては，かなり多くの研修の機会があり，“形”だけにこだわらないよう，また細かい評価の仕方等も研修が進んでいると思う。
- 現状では，まったく評価できていない。しかしながら，必要性は感じている。
- IB 指導教員の不足。全国的に，大学側での入学受験の受け入れ体制の遅れ。
- １．基準の設定　２．Deep・Active・Learning を担当する教員の育成。
- 高校でのアクディブ・ラーニングについての理解が進んでいないのが現状。
- アクティブ・ラーニングは，現在授業の中に多かれ少なかれ取り入れているが，形がアクティブでも思考が伴わないものもあり，形式と内容の両方の評価が必要だと感じている。
- 歯学部の教員ですが，歯科医師国家試験は，「国家試験出題基準」で制限をかけ，「知識の量」を問うものとなっている。ただ「国際的な研究者を目指す者」という条件を付ければ別だが，通常の歯科医師を目指す学生にはもったいない感じがする。国家試験の形態を変えないと，IB 教育を受けた学生を受け入れても宝の持ち腐れになると思われる。
- どのように評価しにくいものを評価していくのか。評価基準の作成，このコースの形成について，どのようにして時間をとるのか。
- 客観性の確保。アクティブ・ラーニングに向き，不向きの教科や分野への対応。

その他の意見

- 会場が寒かった。
- 田原先生，初めの講演もパネルディスカッションもマイクが遠くて聞取りにくかった。
- 3 時間休みなしは，きついです。もう少し早い時間帯に，一度休憩をはさんでいただきたかった。
- スケジュールが守られていない。時間配分が悪い。
- パネルディスカッションが散漫なものになってしまった。テーマに沿った構成を基本に進めて欲しかった。
- パネルディスカッションの時間が少なかったと思う。
- “評価”に絞ったテーマで，ゴールから捉えられていたので，大変よく理解できた。
- せっかくなので IBO の方からのお話をもっとうかがいたかった。IB program は本当に複雑で，理解に時間がかかるので，それが今一番の課題ではないかと思う。DP に注目されていますが，日本は特に MYP からつながないと難しい。IB 勉強会が最初のステップでは？でもパネリストの先生は知っておいて欲しかった。
- 加藤学園の話は，Carolyn 氏の後の方が良かったのではないか。

AP シンポジウム実施報告
～国際バカロレアの「学びの評価」と高校・大学教育改革への活用～

開催日時：12 月 14 日（月）13:00～17:00
開催場所：岡山大学創立五十周年記念館
主催　国立大学法人岡山大学アドミッションセンター
参加：高等学校、国内 IB 校と IB 修了者受入大学、岡山大学関係者（約 100 名）

趣旨

国際バカロレア（IB）教育は、これからの世界をリードする若者の育成を目標に、必要な学力、能力、資質などを統合的に養成する教育プログラムとして高く評価されている。IB 教育では、学習成果の評価(アセスメント)を指導や学修と一体化した要素として重要視し、多様な学びを通して得られる成果を総合的に評価する体系が構築されてきている。

一方、我が国の教育については、新しい変動の時代に向けて、従来の知識･技能を教える教育から、自ら進んで考え、判断し、多様な人々と協働して問題を解決する資質や能力を育む教育に大きく転換しようとしている。このような「新しい能力」を育むために、多様な学習活動が高校や大学教育でも導入されつつあるが、具体的にどのような能力を目標とするのか、また、学習の成果を適切に評価するための方策などについては研究や検討が進められている状況である。

我が国がめざす教育改革の目標や取り入れようしている教育方法は、IB 教育が実践しているものと多くの点で共通している。このため、学習目標の設定やその成果を適切に評価する具体的な方法などについては、IB 教育が構築してきたものから学ぶことが多いと考えられる。さらに、IB 教育の最終課程（ディプロマ資格）については、岡山大学を含めて世界の多くの大学がその評価結果を基準として、選抜のための試験を課さずに入学希望者を受け入れている。新しい時代に向けた高校ならびに大学の教育改革が着実に実行され、そこに適切な評価方法が開発・導入されれば、IB ディプロマ資格のように、高校での活動評価を基準に大学入学者を判定できることとなり、初等・中等教育から大学教育に至る一貫した教育改革が実現することとなる。

そこで、本シンポジウムでは、IB 教育を提供する組織（国際バカロレア機構）から IB 教育の「学びの評価」についての企画・運営の代表者、「新しい能力」とその評価について我が国を代表する研究者、日本の高校教育への IB 教育の導入について調査・研究を進めている研究者、また、高等学校での IB コースにおいて、長年実際に教科指導と評価を実施している教員を招いて講演いただいた。講演の後、岡山県のスーパーサイエンスハイスクールの担当教員から探求型学習についての評価事例を報告いただき、講演者をパネラーとして討論会を実施した。

講演

国際バカロレア教育の評価から何を学ぶことができるか（論点整理）
　田原 誠（岡山大学副学長（入試改革担当））

国際バカロレア（IB）教育における評価(Assessment)
　Carolyn Adams (Chief Assessment Officer, International Baccalaureate Office)

能力と学習の評価ーその枠組みー

松下 佳代（京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授）

IB 教育から高等教育への示唆（学習評価の観点から）

御手洗明佳 （千葉大学運営基盤機構大学評価部門特任研究員）

１条校での IB 教育の評価

ウェンドフェルト延子（加藤学園暁秀高等学校中学校バイリンガルコースディレクター）

パネルディスカッション

モデレーター　田原　誠

パネリスト

Carolyn Adams、松下 佳代、御手洗明佳、ウェンドフェルト延子

討論内容

以下の二つの課題を中心に、多様な学習活動が本格的に導入される高等教育において、IB の達成度評価の方法や体系から何を学び何を取り入れられるか、さらには、高大教育を接続する大学入試改革に向けてどのように活用していけばよいかなどについて議論を展開し、聴講者には、IB 教育の評価についてより深く理解していただくことができた。

ディスカッション課題１

我が国の教育では、「新しい能力「が求められており、最近の高大接続答申では「学力の三要素」として定義されている（松下教授）。また、大学教育の質的転換答申の中で、「社会で求められる能力」が提示されており、その改革が目指す教育と IB 教育には共通性がある（御手洗先生）。このような「新しい能力」や社会で求められる能力などについて、国際バカロレア教育のアプローチ【教育の使命と育成すべき目標をはっきりと定めた上で、「学習の方法」と教科の達成度を客観的に、かつ高い信頼性をもって評価する試験を設計する。】を採用していくとすると、我が国の高校や大学の教育について今後どのように改革を進めれば良いか？

ディスカッション課題２

普通科高校における教育改革は、課題探求型の授業を導入することが多いと見られる。高校教育に新しい能力や学力の涵養を進めていくために、国際バカロレア教育から、どのような提案があるか？